©河北新報社 2009

NIE特集

Newspaper In Education

有賀小

学校名　栗原市立有賀小学校
所在地　栗原市若柳武鎗竹之内前３
電　話　0228（32）2589
校　長　鈴木　安子
児　童　63人

厳しく育て 甘い実り

おいしいいちご作り 秘密を探れ！

知り隊

有賀小から自転車で10分の所にある大きなビニールハウス。そのとなりに「いちご屋さん」の赤い看板の直売所があります。とても大きくて、甘いいちごがたくさん並んでいます。どんな人が作っているのか、どうしたらこんなにおいしいいちごができるのか、わたしたちの学区でいちご農園を営む小野晃大さんに、おいしいいちご作りの秘密を伺いました。

いちご農園で、小野さんに取材する子どもたち

水やり ぎりぎりの量

小野さんがいちご作りを始めたのは２００６年で、毎年７㌧のいちごを収穫しています。ビニールハウスの中に、いちごの苗が１万４千株。年々いちごの品質が向上し、収穫量も増えています。小野さんは「いちごの気持ちになって環境を整えるように心がけています」と話していました。

ビニールハウスの土には、酪農を営んでいる小野さんの家でできた堆肥を混ぜています。でもハウスの中は全然くさくありません。堆肥は２年くらい熟成させると全然におわなくなるのだそうです。とてもびっくりしました。

「水も、ぎりぎりの量しかあげないのですよ」。土をさわると予想外に乾いています。水をあげすぎるのは、苗を甘やかすことになります。おいしい実をつける苗は、丈夫でなくてはなりません。だから厳しく育てるのだそうです。それを聞いた引率の先生が「子どもと同じですね」と笑いました。

小野さんは地元の高校を卒業後、宮城県農業短期大学（旧）に進学。そこの園芸科で勉強してから、茨城県と石巻市でいちご作りの修行をしました。どうしてそんなにがんばれたのか聞いたところ、「たくさんいちごが食べたかったから」とにっこり笑ってお話ししてくれました。

◇　◇

「お客さんの喜ぶ顔を見るとがんばれますよ」。いちご大好きの小野さんが作るいちごはとても甘くておいしいので、遠くの方から買いに来る人もたくさんいます。直売所の皆さんも笑顔で応対してくれます。わたしたちの学校の近くに来たときには、ぜひ小野さんのいちご屋さんに立ち寄ってみてください。

文・直井響、佐々木彩、小野寺理子、菅原亜美（６年）

言い隊

■ ペット大切にしよう ■

「キャンキャン」。悲しい鳴き声が聞こえます。捨て犬が増えているというニュースを見ました。「どうして捨ててしまうのだろう」私は犬を飼っています。近所にも、犬を飼っている人がたくさんいます。みんな朝や夕方に散歩をして、家族と同じように犬を大切にしています。犬を捨てるということは、家族を捨てるのと同じことです。

飼い主の見つからない捨て犬は、保健所に連れていかれて殺されてしまうそうです。そんなニュースを聞くたびに、とてもさみしい気持ちになります。飼い主の人が責任をもってペットを大切にする。みんながそう思ってくれるとうれしいです。

（６年・岩渕明日香）

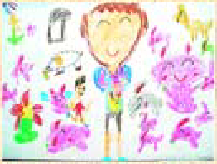
■ 命の尊さ 忘れないで ■

３万３千人。おととし、自殺で死んだ人の数だ。毎日だれかが死んだというニュースを耳にする。火事や交通事故で死んでしまう人もたくさんいる。どうしてそんなことになってしまうのかなあ、と考えてみた。

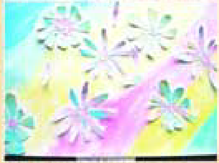
自分のことばっかり考えている人が多いのかな。交通事故は、スピードを出しすぎているから起きてしまうのだと思う。みんなが気をつければ防げるのがほとんどだろう。それから、命を大切にするということをわすれてしまっている人が多いのかな。命が必要ない人なんてこの世の中にはいないってことをもう一度思い出してほしいと思う。

（６年・佐藤麗華）

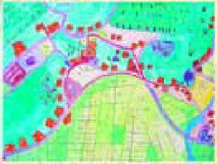
うきうきキャンバス



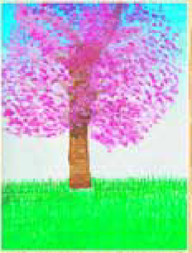
うさぎとあそんだよ
１年・小野寺美月



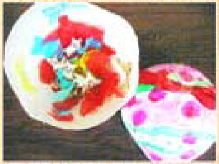
七色の花
２年・佐藤永遠



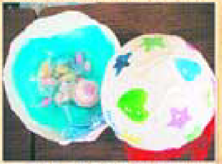
有賀のたんけんまっぷ
３年・小野寺晴香，菅原一真



さくら　５年・佐々木由佳



スイカの中は…
４年・佐藤摩由子



カラフルなたまご
４年・菅原未唯奈

教え隊

手作りカレンダー

季節の絵 心を込めて

お年よりに、手作りカレンダーを渡す子どもたち＝昨年12月

有賀小では、毎年ひとり暮らしのお年よりのみなさんに、手作りのカレンダーをプレゼントしています。

１年生から６年生までのたてわりグループで分担して作ります。春のページには冬眠から目覚めたクマさん、秋にはやきいもなどの絵をかいて、元気を出してもらえるようなメッセージをそえます。

「今年もありがとう」。毎年、楽しみにしてくれるお年よりのみなさんのために、今年も心をこめてカレンダーを作ります。

文・鈴木秀幸、佐々木佳輔、佐藤美佑（６年）

編集後記

「いちご屋さん」の取材をしたいと思ったのは、毎年いちごの苗を植えるときに、いちご摘み体験に招待してもらっているからです。取材に行って、私たちの大先輩ががんばっている姿に触れることができました。自分が好きなことを仕事にするのは、とてもうらやましいと思いました。私たちも小野さんみたいに仕事ができるように、勉強をがんばりたいと思います。

この新聞づくりを通して、みんなにわかりやすく読んでもらう文章を書くのはとても大変だということがわかりました。本物の新聞を作るという貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

＜編集委員＞岩渕明日香、鈴木秀幸、小野寺理子、佐藤美佑、佐々木彩、直井響、菅原亜美、佐々木佳輔、佐藤麗華（６年）
＜題字デザイン＞　鈴木ちなみ、菅原康平（６年）
＜指導教員＞伊藤ゆみ子